



東京駅八重洲口の駅前開発プロジェクト



サウスタワー。アルミフィン反射により様々な表情がある外観



グランルーフ、ノースタワーを望む。



東京駅八重洲口開発

グランルーフ、グラントウキョウウノースタワー、 グラントウキョウサウスタワー、駅前広場

選評

皇居からの堂々とした行幸通りを受け止める重厚な赤煉瓦駅舎。我々の東京駅に対するイメージは、この歴史性溢れる丸の内側の景観で形づくられていると言っても過言ではない。それに引き換え旧来の八重洲側は、狭隘な駅前広場に面して板状の「駅ビル」が正面に構えるだけの、日本を代表するターミナル駅としては印象の薄いものであった。本計画は、そこに未来に向けた東京駅のもうひとつの新しい顔を、駅開業一〇〇周年を目処につくろうというものである。

この新しい顔づくりは、二棟の超高層とそれらを結びつける歩行者空間として駅前広場の再整備と既存の都市施設との連携強化から成り立っている。その建築手法は、モニュメンタルな建築に頼るのではなく、都市空間に「ぬけ」をつくるという赤煉瓦の丸の内側とは正反対の手法で実現された。

まず、特例容積率適用区域制度を用いて、丸の内駅舎上空の未利用容積を八重洲側に移転、さらに総合設計制度も併用して一、六〇〇%の容積を獲得し、敷地の南北両端に二〇〇級以上の超高層ビルを計画して事業性を確保する。その上で、中央部は二棟をつなぐ大屋根に覆われた歩行者空間のみとして、八重洲通りから丸の内側の行幸通りへと連続する都市空間の「ぬけ」をつくったのである。さらにこの前面には、奥行きを拡張された駅前広場が広がり、交通結節点機能を充実させつつ三、〇〇〇平方メートルも及ぶ豊かに植栽された空間が「ぬけ」を強調するように配置されている。建物で覆い尽くされた八重洲通り界限にあ

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計・施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2017年で58回を数えます。

< 2017年 第58回 BCS賞受賞作品 > 静岡県草薙総合運動場体育館(このはなアリーナ) 新宿東宝ビル 太子町新庁舎「太子の環」人がつどう・まちをめぐる・太子がつながる 竹中工道具館新館 敦賀駅交流施設「オルパーク」駅前広場キャノピー TSURUMI子どもホスピス 東京駅八重洲口開発: グランルーフ、グラントウキョウノースタワー、グラントウキョウサウスタワー、駅前広場 TOTOミュージアム 桐朋学園大学調布キャンパス1号館 としまエコミュニセタウン TOYAMAキラリ 虎ノ門ヒルズ(環状第二号線新橋・虎ノ門地区第二種市街地再開発事業Ⅲ街区) 直島ホール MIZKAN MUSEUM YKK80ビル [特別賞]日本橋ダイヤビルディング [江戸橋倉庫ビル]の保存・再生 早稲田大学 早稲田キャンパス3号館



建築主

「未来」を象徴する 八重洲口の新顔づくり

東京駅八重洲口開発は、共同事業者の三井不動産(株)、鹿島八重洲開発(株)他とともに2001年から段階的に計画、整備を進めました。

南北2棟のグラントウキョウノースタワー・サウスタワー、それらをつなぐグランルーフ(大屋根)を建設するとともに、駅前広場を緑あふれる空間へと再整備を行い、2014年秋に八重洲口に新たなゲートが完成いたしました。「歴史」を象徴する丸の内側の赤レンガ駅舎と対比し、

「未来」を象徴する八重洲側では、先進性、先端性を意識したデザインとし、日本を代表する設計者、施工者の協力のもと、首都東京に相応しいランドマークが実現できました。

本プロジェクトにご協力いただいた皆様、地元の方々のご期待に応えるためにも、今後とも駅の活力で街を元気にし、街の発展に貢献していきたいと思っております。



東日本旅客鉄道株式会社
常務執行役員
総合企画本部副本部長
平野邦彦
Kunihiko Hirano

設計者

より



株式会社日建設計
代表取締役社長
亀井忠夫
Tadao Kamei

「新しいゲートとして」 新たなパブリックスペースを求めて

本プロジェクトは首都東京の新しい顔づくりとして、2001年の企画段階から2014年駅前広場完成まで14年の歳月をかけ、東京の「新しいゲート」の完成に至りました。

南北に並ぶ高さ200mのクリスタルタワーと、それをつなぐペDESTリアンデッキと「光の帆」をデザインコンセプトとしたダイナミックで軽快な大屋根により、新しいスカイラインと都市景観を生み出しています。

超高層ツインタワー、デッキ、大屋根、駅前広場にいたるすべての境界を一体的にデザインしたひとつの都市のランドスケープは、新たな人の流れを生み出すパブリックスペースと柔らかな光と緑によって自然を織り込み、四季折々の表情を創り出しました。(株)ジェイアール東日本建築設計事務所との設計JV、デザインアーキテクトとして、Helmut Jahnが参画しました。

施工者

より

いつまでも多くのお客様に ご利用いただきたい

東京駅八重洲口開発は、2004年のツインタワーの着工から2014年のグランルーフの完成まですべての工事において、日本の大動脈である新幹線と近接し、東京駅をご利用のお客様の通路の安全を常に確保しながら昼夜兼行の工事を行いました。

これらの厳しい工事を順調に進められたのは、事業者・設計者・施工者が一体となり取り組ん

だ成果であり、このチームとしてのモチベーションが支えてくれたものであると痛感しています。

東京駅の八重洲側に新たな顔が完成し、多くのお客様にご利用いただき感無量です。超高層ツインタワー、デッキ、大屋根の大空間グランルーフ、緑溢れる広場を、東京の玄関としていつまでもご利用いただきたいものです。



鹿島建設株式会社
東京建築支店
所長(当時)
川端弘樹
Hiroki Kawabata



ノースタワー。高透過ガラスによるニュートラルな外観



2階ペDESTリアンデッキ夜景



東京駅八重洲中央口を膜構造の大屋根が覆う。

って、この広々とした空の大きさは新鮮な景観となり、東京駅のもうひとつの顔をつくり出すことに大きく貢献している。

そしてその主役となるのが、グランルーフと名付けられた白い帆のような膜構造の大屋根である。古い鉄道レールを再利用し「鉄道の記憶」を継承した滑らかな鉄骨フレームで上から支えられた一枚

の布が、むくりを持った形で軽やかに歩行者空間を覆い、下を行き交う多くの人びとを包み込む。

東京の玄関口での約九年にも及ぶ昼夜兼行の工事をやり遂げた施工関係者のご苦労にも、頭の下がる思いである。日本の大動脈新幹線に近接し、万全を期して施工に臨まなければならない緊張感、工事を効率的に進めつつ安全な歩行

者通路をいかに確保していくかなど、施工上の課題は山積していたはずである。そうした困難な条件を建築主、設計者、施工者が一体となって克服し、豊かな公共空間に彩られた東京駅の新しい顔をつくり上げた本プロジェクトの社会的意義は大きい。

【選考委員】
山本圭介・陶器三三雄・河野晴彦

計画概要

建築主: 東日本旅客鉄道(株) / 三井不動産(株)
鹿島八重洲開発(株) / 三井住友信託銀行(株)
設計者: (株)日建設計 / (株)ジェイアール東日本建築設計事務所

施工者: 鹿島建設(株) / 鉄建建設(株) / 清水建設(株) / (株)大林組 / 大成建設(株) / (株)竹中工務店 / 三井住友建設(株)

所在地: 東京都千代田区丸の内1-9-1、1-9-2
竣工日: 2013年8月23日

敷地面積: グランルーフ+グラントウキョウノースタワー: 14,439㎡
グラントウキョウサウスタワー: 5,229㎡
建築面積: グランルーフ+グラントウキョウノースタワー: 12,795㎡
グラントウキョウサウスタワー: 3,713㎡
延床面積: グランルーフ+グラントウキョウノースタワー: 212,395㎡
グラントウキョウサウスタワー: 139,785㎡

階数: グランルーフ+グラントウキョウノースタワー: 地上43階、地下4階、塔屋2階
グラントウキョウサウスタワー: 地上42階、地下4階、塔屋1階
構造: グランルーフ+グラントウキョウノースタワー / グラントウキョウサウスタワー: 鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造